

# 令和6年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 実施要項

## － 地域共生社会の実現を目指す職種横断的研修 －

### 1. 目的（趣旨）

昨今の少子高齢化や人口減少、核家族・単身世帯の増加等の社会構造の変化に伴い、地域においては社会的孤立や生活困窮、虐待など深刻で多様な問題が顕在化しています。

このような中、国においては、これらの複雑化・複合化したニーズに対応する包括的支援体制の構築に向け、「重層的支援体制整備事業」が法定化されるなど、地域共生社会政策が進められています。

これらに共通する視点は、個人の生活を、地域を基盤として支え、ネットワーク形成や社会資源開発を含めた地域づくりそのものを目指していくことであり、それらを実現していくために、コミュニティソーシャルワークの展開が求められています。

また、誰もが安心してその人らしく暮らすことができる地域づくりのためには、既存の制度・サービスだけでは対応が困難な課題を抱える人々に対して、身近な場で生活者と同じ視点を持って、地域住民や関係機関・団体と協働して支援を行うことが求められます。

本研修は、これらの役割を担う支援者や地域の実践者が、様々な地域社会生活課題への対応力を養い、解決につなげることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を理解し、その展開プロセスや手法を学ぶための機会として開催します。

2. 主催 社会福祉法人富山県社会福祉協議会、富山県福祉カレッジ

3. 協力 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

### 4. 後援

富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会、富山県老人福祉施設協議会、富山県知的障害者福祉協会、(公社)富山県精神保健福祉協会、(一社)富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、(一社)富山県介護支援専門員協会、富山県相談支援専門員協会、富山県民生委員児童委員協議会、富山県

### 5. 期 日

(1)前期課程 令和6年 10月 24日(木)・25日(金)

(2)後期課程 令和6年 12月 12日(木)・13日(金)

6. 定員（予定） 25名

### 7. 会 場

パレブラン高志会館「麗花」 富山市千歳町 1-3-1 電話：076-441-2255

## 8. 参加対象者

- (1) 市町村社会福祉協議会職員
- (2) 相談援助業務に従事する職員（地域包括支援センター職員、障害者相談支援機関職員、介護支援専門員、スクールソーシャルワーカー、生活困窮者自立支援事業における自立相談支援機関職員、福祉サービス等と連携し地域での生活を支援する医療機関職員 等）
- (3) 市町村行政において包括的支援体制整備や地域福祉を担当する職員
- (4) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の担当者
- (5) 民生委員・児童委員、ケアネット活動リーダー等

## 9. 日 程

### 【前期課程】

### 【1日目】10月24日（木）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30	開会・オリエンテーション	
9:40 (60分)	<b>【講義①】</b> <b>「地域共生社会政策時代における地域包括ケアと コミュニティソーシャルワーク」</b> 地域福祉関連制度・施策の歴史的展開と今日における コミュニティソーシャルワークの必要性や意義を学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
10:50 (80分)	<b>【演習①】</b> <b>事例報告</b> ～県内の4事例から～	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏  富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
	<b>事例①</b> 守山・二上・能町地域包括支援センター 主任介護支援専門員 有澤 律子 氏	
	Aさん79歳（アルツハイマー型認知症）、夫Bさん84歳（要介護1 発作性心房細動、頻脈性不整脈、潜在性甲状腺機能低下症、左下肢3度熱傷）、長男Cさん56歳（20代で統合失調症の診断を受けたが受診拒否して就労していない）3人暮らし。最近Aさんの徘徊と幻聴から警察が介入し関わるようになった。Bさんは自営の借金があり親族が関わりを拒否している。それぞれに問題を抱えている家族の支援について検討していきます。	
	<b>事例②</b> 朝日町社会福祉協議会 主任 高野 勇樹 氏	
	Aさん（75歳）は、同居の兄妹が順に亡くなり一人暮らしとなった。他の頼れる親族や親しい友人もいないAさん。そんなAさんのこころの拠り所はネコであった。野良ネコの世話をしつつ、自身とネコの境遇を重ね寂しさを紛らわすAさん。しかし本心で「他者とのつながり」を求めているような言動が見受けられる。ただ、いつしか多頭飼育となったネコがいるAさん住まいは、古いうえにゴミで溢れ、衛生環境の悪さから近隣住人は疎遠がちとなっていった。また、所持金も計画的に使えない。Aさんの今後や望みをふまえて、できることを考えます。	

事例③	児童発達支援センターつくし学園 相談支援専門員 高桑 美紀 氏	<p>父Aさん、母Bさん（糖尿病）、長男Cさん（中学生・療育手帳A）、長女Dさん（小学生・発達障害）の4人暮らし。Cさんは、生活全般にサポートが必要。情緒の起伏から物を壊したり自傷したりすることがある。Dさんは、身辺自立面や社会性の向上がみられる一方、思いに沿わないことがあると、泣く、寝転ぶなどすることが多い。そのため、両親は子どもたちへの関わりに困っている。母は家事を担っているが食事管理や片付けが苦手です部屋中に物が散乱している。また自身の体調管理も不十分。学校には準備が間に合わず、毎日遅刻している状況。この世帯への支援について考えます。</p>
事例④	めひの自閉症地域生活支援センター 富山市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 社会福祉士・相談支援専門員 宮舟 貴子 氏	<p>男児（小低学年、不登校）、母親、祖母の生活保護家庭。夫々に障害や持病を抱えている。子育てや家事を全面的に頼ってきた祖母の持病が悪化。また、同時進行で男児の発作が繰り返し起こり、その都度、母子入院となった。このような状況下で祖母が他界し、母子だけの暮らしになった。このご家庭の支援に他機関連携で支援を続けてきた。しかし、現在本児の刺激になることは避けたいとの母親の思いから支援者が入りにくくなっている。これまでの支援の経過と今後のこの母子家庭への支援のあり方や本児の養育について考えます。</p>
12:10	昼食・休憩	
13:10	<b>【演習②-1】事例検討(1)</b> <b>「コミュニティソーシャルワークの視点による個別課題アセスメント」</b> 報告のあった個別事例に基づき、必要なアセスメントの視点と枠組みについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
14:50	<b>【演習②-2】事例検討(2)</b> <b>「コミュニティソーシャルワークの視点による問題解決方針の立案と援助システムづくり」</b> 報告のあった個別事例に対する援助方針の立案とその具現化に必要なシステムについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

(参加は任意)

17:30	交流会	「パレブラン高志会館リトル上海」(予定)
~19:30		

**【2日目】10月25日（金）**

時間	内容	講師等
9:30 (100分)	<b>【演習②-2（続き）】事例検討(2)</b> <b>「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」</b>	
11:20 (50分)	<b>【演習③ ロールプレイ】</b> <b>「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」</b> 自己覚知を通してヴァルネラビリティのある人の相談支援のあり方について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:10	昼食・休憩	
13:10 (80分)	<b>【演習③ ロールプレイ（続き）】</b> <b>「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」</b>	
14:30 (40分)	<b>【講義②】</b> <b>「ヴァルネラビリティのある人の特性とアウトリーチの必要性」</b> ヴァルネラビリティのある人の特性を理解し、発見の仕方や適切な相談支援へのつなぎ、信頼関係の構築について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
15:20 (100分)	<b>【演習④-1】</b> <b>「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発（1）」</b> コミュニティソーシャルワークを展開するための圏域の設定や機能、地域生活課題の捉え方、問題解決のためのプログラム開発について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

※前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。

**【後期課程】**

**【1日目】12月12日（木）**

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30 (170分)	<b>【演習④-2】</b> <b>「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発（2）」</b> ・問題解決プログラム立案、グループ発表 ・プログラムの立て方、データ活用、実現するための手順や方法等について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏

12:20	昼食・休憩	
13:20 (60分)	【演習④-2(続き)】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発(2)」	
14:30 (150分)	【演習⑤】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」 本人が有する社会的関係や地域資源との関係性に着目したソーシャルサポートネットワークの形成支援とそれを実行するための仕組みづくりについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏  富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

(参加は任意)

17:30 ~19:30	交流会	(会場未定)
-----------------	-----	--------

## 【2日目】12月13日(金)

時間	内容	講師等
9:30~ (150分)	【演習⑤(続き)】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏  富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:00	昼食・休憩	
13:00~ (140分)	【演習⑤(続き)】	
15:30~ (90分)	【総括講義】 地域共生社会の実現に向けて専門職に求められる役割や必要な視点や考え方を再確認するとともに、今後のコミュニティソーシャルワーク実践のポイントを押さえる	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
17:00	終了	

## 10. 参加申込み

(1) 申込期限 令和6年9月30日(月)

(2) 申込方法



参加申込フォーム用 QR コード

【Google フォームからの申込み】(①又は②の方法で参加申込フォームにアクセスください)

①次の URL から参加申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。

URL : <https://forms.gle/oVZPuh8yMH5U8QE59>

②本会(福祉カレッジ)ホームページ <https://www.toyama-shakyo.or.jp/> の令和6年度地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修の実施要項・申込書ダウンロードページに参加申込フォームへのリンクがあります。

### 【メールでの申込書送信】

ダウンロードした申込書にご入力の上、次のメールアドレスに送信ください。

メールアドレス oohata@wel.pref.toyama.jp

(3) 参加費 15,000円(テキスト代込み)

11,700円(テキスト代なし)

(テキストは、『地域福祉とは何か』(中央法規、2022年4月10日発行)を使用します。既にテキストをお持ちの場合やご自身で購入される場合は、参加費は11,700円となります。)

(4) 参加費及びテキスト代金のお支払い方法

10月11日(金)までに下記指定口座へお振込みください。

なお、振込手数料はご参加される方においてご負担願います。

北陸銀行 県庁内支店 普通預金 No.1083785

口座名義：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

(5) その他 申込多数の場合は、参加人数の調整やお断りをさせていただく場合があります。その際は、申込期限後、10日以内にご連絡し、参加費は後日返金いたします。

## 11. その他

- (1) 本研修で扱う事例は、個人情報保護に留意し、個人を識別できる記述の全部又は一部を削除し、又は当該部分を復元できない他の記述に置き換えて作成していますが、受講されるにあたり、別紙「個人情報の取扱いに関する誓約書」に署名の上ご提出いただきますことをご了承ください。誓約書は研修初日に受付でご提出ください。
- (2) 前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。
- (3) 全課程の受講を条件に修了証書を交付します。
- (4) 前期課程及び後期課程の初日に交流会を予定しております。講師との親睦、他の職場の方との交流を深め情報交換する機会として、ぜひご参加ください。参加希望の方は、参加申込フォーム又は参加申込書でお知らせください。交流会費は6,000円です。当日会場でお支払いください。

## 12. 問合せ先

富山県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課 [担当：大畑]

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL：076-432-6123 FAX：076-432-6124 E-mail：oohata@wel.pref.toyama.jp